

# ナゴラン

絶滅危惧IA類(CR)

Sedirea japonica



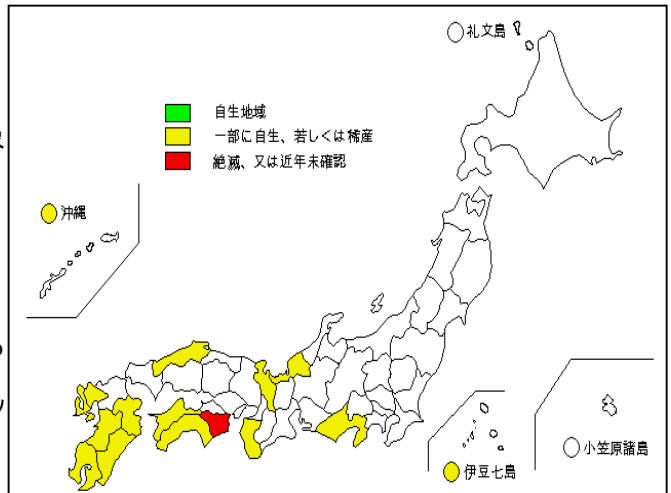
ナゴラン(愛知県 栽培品 10.6/12)

静岡県以南の沢沿いで湿度が高い広葉樹林に自生する着生蘭です。フウラン、セッコクと並ぶ代表的な着生蘭です。着生蘭の中では比較的大形で、楕円形で肉厚な葉を交互に数枚展開し、花期は5～6月で葉と葉の間から花茎を伸ばし、原種の胡蝶蘭を思わせる肉厚の花弁を持った象牙色の花を複数輪咲かせます。

根は太くしっかりしており、この根で木の幹や枝に水平もしくははぶら下がるように着生します。

また花には芳香があり草姿も整っているため観賞価値は非常に高いです。

南方系の蘭で自生量も比較的多かったはずなのですが、この美しさと人気により商業的価値が高く、森林伐採による自生地の現象だけでなく、悪質な業者による大量盗掘により現在では自生の姿を見ることは困難で、国のレッドデータブックでも最も危険な絶滅危惧種1A類に指定されています。



### 日本南部の常緑樹林帯に自生します。

古くから好んで栽培され、無菌培養による商用生産も盛んなことから入手は容易です。一般的にはビニールポット、または素焼鉢に上向きで植えられて売られていることが多いですが、ヘゴやコルクなどに下向きに着生させると野趣あふれる趣で楽しむことができます。値段も手ごろで一鉢500～1000円程度で入手できます。

但し未だに盗掘株を堂々と売っているケースもあります。盗掘の野生株は葉のバランスが悪く長く間延びした形になっていたり、根が無理にはがされた後があったりと一目瞭然なので決して購入しないようお気をつけ下さい。

栽培は容易です。冬場の最低気温が+になるような地方でしたら庭木につけても元気に育ちます。鉢植えならば素焼鉢に墨やダンボールを芯にしてミズゴケを盛ってその上に株を乗せるように植えるのがおすすめです。夏場は十分な灌水と通風を、冬場は葉から水分が抜けてややしわしわになりますが、水を控えるのがコツです。直射日光は避けます。



ナゴラン(愛知県 栽培品 10.6/12)

増殖は通常栽培では望めるものではありません。通常株繁殖はしないですし成長も遅いです。

本気で増殖させるのであれば、人工授粉により種子を結実させ無菌培養で苗を得る方法が一番確実だと思います。

長年へゴ板などで栽培している株であれば、根元に生えた苔のマットに種子が付着し自然発芽することも期待できそうです。

稀に花屋さんでフウランとの交配種(俗称**ナゴフウラン**)や洋蘭のファレノプシス属との交配種などが洋蘭に混じって売られていることもあります。



ナゴラン(愛知県 栽培品 10.4/25)



ナゴランの草姿(愛知県 栽培品 10.6/12)



ナゴランの根(愛知県 栽培品 10.6/12)



花色の薄い固体(愛知県 栽培品 10.6/12)



庭木での着生(静岡県11.08/15)